

丹波市権利擁護支援センターの愛称（決定）について

1. 募集対象者：90名

- ①市職員（健康福祉部第2庁舎勤務） 76名
 ②丹波市権利擁護支援センター設立準備委員会委員 14名

2. 募集期間

- ①R5.4.26～R5.5.19（市職員）
 ②R5.6.29～R5.7.7（丹波市権利擁護支援センター設立準備委員会委員）

3. 応募総数

18案

4. 最終候補4案

丹波市権利擁護支援センター「よりそい」

	愛称	備考（理由やセンターに対する思い等）	決定
(1)	よりそい	頼りたい時に安心感がある言葉。心配や不安な時、同じ方を向いて、本人の気持ちを大事にし、寄り添った支援を行う。	●
(2)	あかり	明るい暮らし・未来のために寄り添い、自己決定できるように、問題という暗闇に権利擁護という専門支援の明かりを照らす。	
(3)	なないろ	地域には色々な人がいて、人生にも色々な事がある。多様性を七色の様に美しいと認め、専門性をもって権利擁護支援を行う。	
(4)	ともに	英語の Together を日本語で。相談者自身が主となって専門的な立場で共に考え、支援する。共に生きる。	

注1) 同数の得票があり、4案が最終候補となりました。

注2) 上記の表示順は得票数が多かった順ではありません。

5. 選考過程

- ①兵庫県内の権利擁護支援センター、丹波市内の介護サービス・障がいサービスの事業所及びボランティアグループなどの支援機関と同じ名称や似た名称のものについては、その旨を委員会資料に示し、選考を行った。
- ②第7回丹波市権利擁護支援センター設立準備委員会にて委員1人が最大3票まで投票できることとし、18案のうち上位3案まで絞った後、最終的に市長が決定することで委員会にて合意を得た。

丹波市権利擁護支援センターの愛称（案）について

丹波市権利擁護支援センター設立準備委員会

	愛 称	備考（理由やセンターに対する思い等）	選考 結果
(1)	つなぐ	人と人、人と支援者、支援者と支援者をつなぐ。 一人で悩まず、誰もがつなぐ気持ちを持って支援を行う。	
(2)	よりそい	頼りたい時に安心感がある言葉。心配や不安な時、同じ方を向いて、本人の気持ちを大事にし、寄り添った支援を行う。	●
(3)	はればれ	生活の困りごとに対し、晴天の様なすっきりとした気持ちになるよう支援を行う。専門職として曇りなき眼で見定める。	
(4)	ほほえみ	微笑んだ顔のもとには権利を守るという軸がブレることがないように、温かさ、優しさをもって相談しやすいセンターとしたい。	
(5)	かけはし	人×環境、人×地域、人×制度、人×人などセンターがかけはしとなり、支援のネットワークをつないでいく。	
(6)	にじ	雨あがりの、なないろの虹のように安心して暮らせる未来となるよう、困りごとや問題解決のため支援を行う。	
(7)	あさぎり	朝霧は丹波の特徴である。「朝霧の後は晴れ」と言われる様に、問題解決を行い、晴れるようセンターが一緒に取り組む。	
(8)	奏 (かなで)	成し遂げるという意味がある。「奏 canade」に「can」が入っており、例え難しい困り事でも支援し、問題が解決できる (can)。	
(9)	ふくもり (福守)	古代日本の防衛に当たった崎守のような、心強い存在であり且つ専門的支援を行うことで、当たり前の幸福や福祉を守る。	
(10)	スクラム	当事者を含めた全員が支援のネットワークを強く組み、一丸となって、当たり前の生活ができるように支援を行う。	
(11)	ゆーとぴあ	you too peer「あなたも仲間」と捉え、相談者自身が問題を解決する一員となるよう支援・サポートを行う。	
(12)	あどサポ	アドボカシーの「アド」、サポートの「サポ」。相談者の意思決定をサポートし、権利を守る支援を行う。	
(13)	あすてらす	明日という当然の生活を照らし出すため、専門性をもって支援を行う。	
(14)	あかり	明るい暮らし・未来のために寄り添い、自己決定できるように、問題という暗闇に権利擁護という専門支援の明かりを照らす。	●
(15)	なないろ	地域には色んな人がいて、人生にも色んな事がある。多様性を七色の様に美しいと認め、専門性をもって権利擁護支援を行う。	●
(16)	いろどり	みんな違うから色んなことがあり、時に問題も起こる。そんな時、権利擁護という専門性を取入れ、問題を解決する。	
(17)	“ほっと” ライン	困っている人、悩んでいる人だけで抱えこまない様、周囲が支援の必要性に気づき、支援のラインに繋げていく。	
(18)	ともに	英語の Together を日本語で。相談者自身が主となって専門的な立場で共に考え、支援する。共に生きる。	●